

発議第 31 号

令和 2 年 12 月 23 日

伊勢市議会

議長 浜口 和久 様

提出者	伊勢市議会議員	上 村 和 生
賛成者	伊勢市議会議員	宮 崎 誠
	伊勢市議会議員	久 保 真
	伊勢市議会議員	中 村 功
	伊勢市議会議員	井 村 貴 志
	伊勢市議会議員	北 村 勝
	伊勢市議会議員	鈴 木 豊 司
	伊勢市議会議員	吉 井 詩 子
	伊勢市議会議員	世 古 明 子
	伊勢市議会議員	野 口 佳 子
	伊勢市議会議員	福 井 輝 夫
	伊勢市議会議員	辻 孝 記
	伊勢市議会議員	吉 岡 勝 裕
	伊勢市議会議員	藤 原 清 史
	伊勢市議会議員	西 山 則 夫
	伊勢市議会議員	小 山 敏 一
	伊勢市議会議員	山 本 正 一
	伊勢市議会議員	世 古 口 新 吾

「議案第 160 号 令和 2 年度伊勢市一般会計補正予算（第 10 号）」
に対する附帯決議案

上記の附帯決議案を伊勢市議会会議規則第 14 条第 1 項の規定により、別紙のとおり提出します。

（提案理由）

令和 2 年度伊勢市一般会計補正予算（第 10 号）について、予算執行に当たっては十分留意すべきことがあると強く求める必要がある。

「議案第 160 号 令和 2 年度伊勢市一般会計補正予算（第 10 号）」
に対する附帯決議（案）

伊勢市駅前 B 地区再開発ビルへの保健福祉拠点施設整備については、これまで市当局からの説明を受け、市議会としても議論を重ねてきたところである。現在は、人口減少、少子・高齢化及び核家族化が進む中、子育て支援、老々介護、子どもや高齢者などへの虐待、また「8050問題」のような引きこもりの事案など様々な社会問題が顕在化してきている。更に、年明けから新型コロナウイルス感染症の問題が加わり深刻な状況を招いている。これらに鑑み、保健・福祉・雇用などの関係機関が縦割りを排し、重層的支援体制の整備に取り組む市の保健・福祉政策については市議会も賛同するものである。

しかしながら、具体的なハローワークとの連携、駐車場の確保など検討すべき課題は残されていると考える。また、駅前ビルの施行者においては、基本合意締結以降、入居条件交渉の中で条件提示が二転三転してきたことは非常に残念であり、信頼性を欠くことになっており、資金面での問題や他の階層への入居状況においても不透明である。

よって、予算執行に当たっては以下の点に十分留意されることを強く求める。

記

1 拠点施設の機能、費用対効果について

保健・福祉・雇用の機能を一か所に集約することで横の連携を強化し、事務効率を上げ、費用対効果を高めること。子どもから高齢者まで相談機能を集約することによる全世代型「気づく・つなぐ・支える」の支援体制を構築すること。

ハローワークとの連携については、生活困窮者や障がい者雇用など既存の取り組みにとらわれず、子育て支援センター利用者の就職の相談支援など、新たな事業にも取り組むことで施設のメリットを最大限に引き出すこと。

2 駅前ビルの将来的な健全経営について

現段階では年に一度、経営状況の報告をさせるということであるが、将来的な健全経営が住民福祉の推進に繋がることから、常時、経営全般について状況を確認し、指導・監督するとともに議会に報告すること。

3 利用者駐車場の確保について

利用者駐車場について一定台数の確保でなく時間での利用としているが、賃貸住宅入居者をはじめ駅前という立地条件から多くの市民や観光客の利用も想定される。利用状況を見ながら、保健福祉拠点施設利用者が困ることのないよう今後も検討するとともに、利便性の良いこの地を選定したことから公共交通の利用を促すこと。

4 市民の理解を得るよう、事業内容や費用対効果などの説明を十分行うこと。

5 上記の事柄を達成するため、国・県・関係機関等と連携を図ること。

以上、決議する。

令和2年12月23日

伊勢市議会